



2024

8

第411号

真宗大谷派京都教区教化広報誌

教区だより

新 京都教区 始動!

新教区 教化本部 ごあいさつ

教化本部専任委員 やすい しげはる いのうえ けいこ ふじなみ ゆう ふじかわ ひでゆき
安居 重晴、井上 啓子、藤浪 遊、藤川 秀行

研修講座部会幹事 ひらはら あきむね ますだ よしひろ ひえたに まこと
平原 晃宗、青少年部会幹事 増田 義弘、出版部会幹事 比叡谷 真

特集 蓮如上人御影道中 出版部会 いわなが あきこ とくだ じゅんこ ひえたに まこと
岩永 晶子、徳田 潤子、比叡谷 真

新教区 教化本部 ごあいさつ

教化本部専任委員

やすしいしげはる
安居 重晴



新京都教区発足に伴い教化本部専任委員を拝命致しました。よろしくお願いいたします。

社会情勢やコロナ禍、地震災害などにより私たちの周りの環境が大きく変わってきている昨今ですが、中でもお寺を取り巻く状況を考えてみると、一昨年実施された第4回門徒戸数調査では、第3回の調査と比較して、計約42000戸もの法務の縁が途絶えることと報告されました。

また、先日、民間有識者グループの人口戦略会議により、744の自治体で、2050年までに20代から30代の女性が半減し、最終的には消滅する可能性があった分析が発表されました。それによりお寺の数も比例的に減少すると考えられます。それらの状況において問題点の改善を行い、10年前の同様の分析による「消滅可能性」認定を脱却したところもありますが、我が教区にも多くの影響を及ぼす恐れのある数値だと考えます。京都教区として、これらの社会的情勢を受けて幅広く教区内の隅々にわたって教えを伝え、活性化をお寺から進めねばならないと思います。新体制では、

教化本部内に企画室が新設されました。この企画室は将来的展望も含め教区のマネジメントを進める重要な部署であり、現状の把握、立案、実施そして結果の確認のサークルを回して効果的な事業を推進するために教区内の特区、地区、各組及び各寺院・教会との情報交換、連絡網などの構築を推進できるように微力ではありますが、門徒の代表の使命として頑張つて行きたいと思います。これからは各地区などお訪ねする機会もあると思います。どうぞよろしくお願いいたします。

教化本部専任委員

いのうえ けいこ
井上 啓子



この度新京都教区の企画室の専任委員を拝命いたしました。企画室というのは旧京都教区にはなかったもので、何をすればいいのか、何ができるのか手探りの状態ですが、一生懸命につとめさせていただきます。

ところで私が企画室の委員に選ばれたのは、やはり「両性で形づくる教団」を進めるためだと思います。新しい教区が性差をはじめあらゆる差異（ちがひ）を超えて多様性を互いに尊重しあえる水平で開かれた教区となることを願っています。しかし残念ながら教区や特区・地区、組の教化委員会において現実的に男女比率に大きな隔たりがあ

ります。そのことに対し、積極的に女性の参画を進め、また女性が参画しやすい環境を整えていくために何ができるか、旧京都教区にあった男女共同参画部会はなくなりましたが、そのことをみんなで考えていきたいと思っています。

教団では女性住職が誕生して30年以上経ちますが、意思決定機関の女性の数はなかなか増えません。教区や組も同様ですので、この辺りもこれから問題としていかなければなりません。それと共に身近な人とのように関わっているのだから、ということも考える必要があります。半径3メートル以内の人との関わりを変えていくことが社会を変えていく力になると言われています。教区が新しくなり、多くの人と出会える機会も増えます。いろんな人の力を借りながら一歩でも進めたらと思っています。

教化本部専任委員

ふじなみ ゆう
藤浪 遊



この度、新京都教区教化本部専任委員を拝命いたしました。

閉塞感や分断、孤独を感じざるをえない時代の中にあって、親鸞聖人の教えは潜在的に強く求められていることを思います。教えに聞き、伝える私たちの任は、重さを増しているといえるでしょう。

しかし現在、COVID-19の影響もあってのことですが、全宗門的に人が出会う場が減少し、それに伴い教えを伝えていく力が先細りしていつているように感じています。若い層の真宗大谷派教師も減少している中、これからの未来への道筋を開き、教化の基盤を築く必要があると思います。

一府五県にまたがり広範囲かつ一千を超える寺院・教会数を有する新京都市教区にとって、教化委員会は単なる教化事業の推進機関ではありません。私自身、旧教区の教区教化委員会という場において多くの方々との出会いと、子育てをいただきました。教区の方々が、教えに聞いていく中で、出会い、語り、声を聞き合える場を創っていくことが、委員会の大きな使命であることを思います。ご指導ご鞭撻のほど、何卒お願い申し上げます。

教化本部専任委員

ふじかわ ひでゆき
藤川 秀行



このたび教化本部専任委員を拝命いたしました。前任の旧京都教区共同教化部会（仮称）では、2023年9月に旧長浜教区企画室、講座研修部門の方々と懇談会を行い、その後作成した報告書の一部を以下に紹介します。

今般の懇談会（9/22）を終えて、改めて長浜教区・京都教区双方の教化体制の違いがより鮮明になった。こ

のことは、それぞれの教区の置かれている環境、規模の違いのみならず、教区の抱えてきた歴史的課題によるものが大きいことを知らされた。そうしたそれぞれの背景にあるものが、双方の教化体制の違いを生み出している要因となり、そこには優劣や善し悪しで語ることでできないコントラストが浮き彫りとなった。

しかし今回の懇談会によつて、こうした相違が見えてきたことこそが、当懇談会の最大の収穫であった。奇しくも両教区は2020年度に教化体制の見直しが実施され、コロナ禍が重なったこともあり、企画室、講座研修部門、共同教化部会（仮称）にとつては、試行錯誤をする中で3年間であった。だからこそ、見直し後の各部門で総括・点検して見えてきた課題を、新教区での教化へ中長期的に反映させていく展望が急務と言える。このことは同様に、新教区教化体制全般にも当てはまる。ここに記した「点検して見えてきた課題の反映」がどこまで丁寧に行けるのか、その重責に身が引き締まる思いです。

ひとひと 男と女の平等って、なに？

出版部会 徳田 潤子
とくだ じゅんこ

私は少し前から寺関係の研修会での自己紹介の際によく「候補衆徒」という名称を使用しています。昔はなにも考えずに使っていましたが、

最近では門徒様に対して使う事が増えた気がします。何故かと振り返ってみますと、門徒様の意識を変えていただく事と「寺の跡継ぎ」男性だけではない」という事を主張する為だと思えます。例えば、門徒様のお宅に参詣にうかがった時、結婚前は何も言われませんでした。

しかし結婚して夫にも参詣に行つてもらうようになつてから「いいお婿さんが来てくれてよかったね。いずれは住職さんになれるのね」と言われるようになりました。元々、門徒様方には結婚後も「寺は私が継ぐことになっておりますし、夫婦間でもそのように話しあいました」とお伝えしておりましたが、多くの方は男性（夫）が寺を継ぐものだという考えが根強くあるようです。また女性は寺の跡継ぎができない（宗門法規上不可能）と思つておられる方もあります。ですので最近では門徒様に、女性でも寺を継ぐ事が可能であることと「候補衆徒」の意味もご説明する機会が増えました。

昔からの先入観というのは私の中にもあるし、誰が悪いわけでもありません。肩書き代わりに「候補衆徒」の名を利用しているような気がしてモヤモヤすることもあります。女性の候補衆徒、住職が自然と受け入れられる土台となる事が私の役割だと気持ち切り替えて、自分の立場を説明し続けていこうと思っています。

研修講座部会幹事

平原晃宗 ひらはら あきむね



研修講座部会は、この度の教区改編にあたって、僧侶の研鑽の場と、組門徒会研修会および同朋の会推進講座などの研修を所管する部会として設置されました。

僧侶に関する事業として、本年度は、昨年休止となった伝道研修会や教師試験検定準備学習会を実施することとなり、これからの時代を担う僧侶の研修を丁寧にしていく予定です。また、組門徒会研修会と、同朋の会推進講座は、今後のカリキュラムの策定などをしていく予定をしています。これ以外にも、得度を受式される方が対象となる得度事前学習会、兼職者を対象に僧侶としての基本的な学びをする拾学舎も調整、協議をしていきます。

研修や講座を開いていくことは、単なる知的欲求を満たす場ではなく、人と人との出会いの場でもあります。教えを体現している人と出会い、その中で教えを深め、自らの生き方を問い直していく。そのような出会いの場に勇気を持つて一歩を踏み出し、ご参加いただける方々が増えていくことを願っております。

青少年部会幹事

増田義弘 ますだ よしひろ



このたび、青少年部会幹事を拝命いたしました。浅学寡聞の身でございますので、今回拝命した役割が分不相応であることは重々承知しておりますが、すべての方々との出会いとつながりを大切にしながら精一杯務めてまいりたいと存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

新たな歩み出しを迎えるにあたり、両教区の部会員が幾度となく顔を合わせ、青少年教化についてそれぞれの歩みを話し合っておりました。特に、児童教化においては、旧長浜教区、旧京都教区ともに、長年にわたり親しまれ途絶えることなく受け継がれてきた教化事業がございます。

これまでの教化活動で継承されてきた願いを丁寧に確かめ合い、新教区として今何が求められているのか。青少年教化の対象は、児童教化に留まらず、幼年から少年、そして青年、若者という幅広い幅をもちます。

目の前のひとりと丁寧に出会い、ともに育ち合う双方の関係大切にしながら、新京都教区として歩み出した私たちが、どのような青少年教化の場を願っているのか。互いに語り合い、より深く思考し、歩みを進めて参りたいと存

じます。

皆様のご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

出版部会幹事

比叡谷真 ひえにや まこと



出版部会で幹事を担当する比叡谷真と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

出版部会の中心事業は教区教化広報誌『教区だより』の企画編集です。あわせて、『教区だより』連載執筆者を招いての「教区だより公開講演会」、「教化伝道冊子発刊」の各事業も担っております。『教区だより』では、教化事業の告知・報告にとどまらず、男女共同参画をはじめとする教区教化の課題について、教区人がともどもに考えていくきっかけとなる誌面づくりを心がけたいと思います。そのために、教区内だけでなく他教区の方にも寄稿いただく予定です。

最後に、『教区だより』はお寺の方々はもちろん、組門徒会員の皆さんにも読んでいただくことが願われています。新京都教区全組門徒会員のお手元に届きますよう、関係各位には何とぞご理解ご協力を賜りたく、衷心よりお願い申し上げます。

特集

蓮如上人御影道中



東本願寺出発

毎年四月二十三日から五月二日にかけて、福井教区吉崎別院で蓮如上人御影法要がお勤まりになります。法要の前後、上人の御影が真宗本願寺（東本願寺）と吉崎別院の間を往還されます。四月十七日から二十三日にかけての御下向（真宗本願寺↓吉崎別院）、そして五月二日から九日までの御上洛（吉崎別院↓真宗本願寺）をあわせて蓮如上人御影道中と呼び、全日程の半分以上、新京都教区内をお通りになります。

御上洛七日目（五月八日）

出版部会 岩永晶子



御上洛七日目、五月八日の道中では、近江八幡市の西田家と圓願寺を訪ねた。西田家では、当主の西田順紀さんをはじめ、ご家族や地域の方々が行をお迎えされた。

勤行前の短い時間にも、随行教導の東金慈師らと参詣者との会話が弾む。聞けば、御影道中の為に自宅を建て直したという。「県外在住ですが、御影道中の日は毎年帰郷しています。海外に居た時も必ず帰国していました」と西田さん。

草刈りを近所の方に頼むなどして、この日の為に自宅を維持されてきた。西田家のお内仏は、中心に蓮如上人の御影が掛けられている。「このお内仏は、蓮如様をお迎えするためのお内仏（本来の形とは違っても）私が物心ついた時から変わらぬ、このお内仏を守っていききたい」と西田さんは話す。

「受け継いだものを絶やしたらいかん」というご当主の強い思いと、地域の皆さんに支えられて、今年も無事に一行を送り出された。

その後、一行は西田家からほど近い圓願寺へ。

本堂には、蓮如上人のご生涯を描いた絵が飾られ、集まったご門徒同士が「今年もお出会いできてよかった」と、言葉を交わされている。

住職の安倍彰雄さんを中心に法要が勤まった後、教導より御法話をいただく。

一行は広間で昼食。魚

や野菜の煮物、和え物などがお膳に並ぶ。食事作りのメンバー、園田壽子さんによれば、献立は昔から変えず、地元の食材を使うことを心がけているという。

坊守の安倍映子さんは、過去に坊守会で御影道中について調べた際の資料も見せていただいた。

「コロナの影響で途絶えかけたお齋作りを、有志のお陰で復活できました。皆の心が蓮如さんに伝わっていると思います」と映子さん。また、道中の会所が、横の繋がりを

持てる機会を作ってほしいとも話された。

当日、門前には「お立寄処」の大きな木札が立てられ、境内の蓮如上人像の前は献花でいっぱいであった。毎年変わらず道中をお支えしているという、圓願寺の皆さんの誇りと喜びを感じさせられた。



左：西田家へ 中：西田家のお内仏 右：随行教導の東金慈師のお話を聞くみなさん



左：圓願寺本堂でお聴聞 右：広間で昼食

御上洛八日目（五月九日）

出版部会 徳田潤子



毎年、山城第四組では五月九日に蓮如上人御影道中（御上洛）に合わせて山科別院の本堂にて組門徒会研修が開催されます。

この研修会はコロナ下で数年間中止されていましたが、久々の開催ということで組内の沢山の御門徒、御住職方が参加されました。午前中は京都教区駐在教導の赤松崇磨師による「真宗大谷派の門徒 組門徒会の役割と使命について」という講題でお話をいただきました。親鸞聖人が歩まれた生涯から門徒の姿勢や生き方を学び、また真宗大谷派の組織、教化、同朋社会の成り立ちを丁寧に紐解いていただきました。

研修会終了後、蓮如上人の御影道中がお着きになるまで書院にて各寺ごとに円座になり、昼食をとりました。この時間は私にとって門徒様方とお話をする大切な時間になっています。

「蓮如上人さまのお通り」という声が響くと、別院の境内に大谷専修学院の皆さんや近所にお住まいの方も加わり、大勢の方と共に御輿車に手を合わせてお迎

えをしました。御輿車を引いておられる方は長い距離を歩いてこられたにも関わらず、爽やかなお顔をされていました。

本堂にて随行教導の東金慈師が「足が痛くてたまらなかったけど、蓮如さんにここまで連れてきてもらった」とお話しされた事が心に残りました。

こうして数年ぶりに多くの皆様が集まって蓮如上人をお迎えができるのは、何があっても念仏を届けるという蓮如上人の願いの元に御影道中を続けてきて下さった方々のおかげだと改めて感じました。



山科別院でお聴聞

御下向二日目（四月十九日）

御上洛五日目（五月六日）

出版部会 比叡谷真



毎年四月十九日、ご本山から福井教区吉崎別院様に向かわれる蓮如上人御影道中（御下向）が、住まいする集落をお通りになります。小休止される旧バス停でお待ち受けして、次の会所寺院である浄榮寺様（近江第二十六組）まで、短い距離ですがお供しています。今年は、連れ合いとご門徒一人の三人で、浄榮寺様でのお勤め・ご法話まで一緒にしました。今回ご法話を頂戴した平等良香先生は、初めての女性随行教導とのことでした。

た。連れ合いが御忌中の宗祖聖人御命日御逮夜に出仕するのについて、私は参詣しました。御忌期間中の蓮如上人御命日（二十四・二十五日）および宗祖聖人御命日（二十七・二十八日）には、御影道中関係教区から出仕者を募っておられます。今後、『教区だより』に同封してご案内がありますので、僧分の皆さんはご注目願います。

翌四月二〇日は、西徳寺様（敦賀組）にお邪魔しました。福井県内の会所寺院にお参りしたのは初めてです。水路沿いにきれいに整備された旧街道筋に、ご門徒が並んでお迎えされていたのが印象的でした。また、県境を越えて、代表のご門徒が一つ前の会所寺院願力寺様（近江第二十五組）の手前までお迎えに行かれたそうです。

五月六日、御影道中（御上洛）の会所寺院真願寺様（現長浜第二十一組）に寄せていただきました。直綴墨袈裟の装束を身に着け、また向拝に幕を吊って、丁寧にお迎えされるご住職・ご門徒のお姿が印象に残りました。今回の御上洛率領は、以前本誌※でインタビューした堀出幸子氏でした。

蓮如上人御影道中は、私たち新京都教区の者にとっても大切なお念仏のご縁です。これからもぜひ相続したいとあらためて感じています。

ご到着の四月二十三日からご本山に向け出立される五月二日まで、吉崎別院様で蓮如上人御忌がお勤まりになります。

四月二十七日、御忌にお参りしまし

※二〇二二年一〇月一日発行第三九〇号
※真宗大谷派京都教区ホームページにて閲覧できます

教区事業

27日（火）～ 28日（水） 夏期 教師試験検定準備学習会

教区会館 2 階 大講堂

教区諸会議

6日（火） 10:00～12:00 教区推進員連絡協議会 総会

教区会館 2 階 大講堂

6日（火） 13:30～16:30 組長会

しんらん交流館 大谷ホール

6日（火） 13:30～16:30 教化本部 出版部会 編集会議

Web 会議 (Zoom)

7日（水） 13:30～16:30 教化本部 企画室 会議

教区会館 2 階 大講堂

教務所からのお知らせ

得度受式者

二〇二四年六月二十一日

・長浜第十五組勝福寺 月見安津子

・近江第七組正明寺 山田唯央

・近江第九組正善寺 金華優

・近江第九組西正寺 西村文

・近江第九組西正寺 折笠静

・出雲組胎泉寺 藤本真

住職任命者

二〇二四年五月二十八日付

・長浜第十八組満徳寺 佐藤大義

敬弔

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

・長浜第十六組教念寺

前住職 嶋田俊明 八十七歳

二〇二四年六月十四日

・近江第三組永願寺

住職 竹村徹 七十八歳

二〇二四年六月十六日

・近江第七組法福寺

前住職 東野秀賢 七十七歳

二〇二四年六月十二日

・近江第二十五組傳正寺

前坊守 河野眞弓 八十七歳

二〇二四年六月十四日

・石西組西念寺

前住職 前田悟 九十三歳

二〇二四年六月十八日

〔寺院教会番号順 敬称略〕

教務所夏期休暇のお知らせ

8月13日（火）から16日（金）までを夏期

休暇といたします。※緊急の場合は、緊急連

絡先までご連絡いただきますよう、お願い

いたします。

※期間中の授与物のお渡しや院号法名の

申請、収骨の授与等は含みません。

〔緊急連絡先（教務所携帯電話）〕

090-3719-7982

教区だより 表紙写真大募集!!

本誌表紙写真を大募集いたします!

テーマは宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・

立教開宗八〇〇年慶讃法要テーマ「南無阿

弥陀仏人と生まれたことの意味をたずね

ていこう」です。ご応募は、京都教務所（担

当・赤松）まで。お待ちしております!



依頼「令和六年能登半島地震」

災害に対する救援金の勧募について

去る一月一日「令和六年能登半島地

震」が発生し、能登地方を中心に広域にわ

たり未曾有の被害をもたらしました。こ

のたびの地震の影響を受けた北陸の地は

真宗門徒の多い地域で、とりわけ震源地で

ある能登地方は、近年、度重なる地震によ

り何度も苦しい思いをされてきました。

そのような中で、このたびの巨大地震

の発生により、多くの寺院・門徒が甚大

な被害を受け、大変深い悲しみと不安の

日々を過ごされております。

つきましては、何卒ご理解を賜り、有縁

の方々にもお声がけいただき、可能な限り

救援金をお取り纏めの上、同封の郵便払

込用紙にて送金くださいますようお願い

申し上げます。

また、このたびの被害状況から、京都教

区としての救援金支援は、複数年度間に

亘る必要があると考えております。今後

の継続支援としての勧募は情勢を検討し

ながら改めてお願い致しますので、引き続

きご理解とご協力をよろしくお願い申し

上げます。

京都教区救援金総額

二〇二四年四月三十日現在

4000件 14,623,726円

京都教区別院 8月の行事予定

5日(月)	6:00～7:00	五村	夏中 暁天講座 法話 藤本智 師 (長浜 第21組 浄福寺)	五村別院
5日(月)	9:00～12:00	五村	夏中 夏の御文拝読・法話 法話 竹中慈祥 師 (長浜 第12組 真廣寺)	五村別院
5日(月)	12:00～13:00	赤野井	定例法要(教如上人御命日) 法話 中川眞 師 (別院輪番)	赤野井別院
6日(火)	6:00～7:00	五村	夏中 暁天講座 法話 増田和佳子 師 (長浜 第16組 誓傳寺)	五村別院
6日(火)	9:00～12:00	五村	夏中 夏の御文拝読・法話 法話 山田孝夫 師 (長浜 第21組 禮信寺)	五村別院
6日(火)	7:00～8:00	赤野井	暁天講座 法話 木越康 師 (大谷大学教授)	赤野井別院
6日(火)	9:30～11:00	赤野井	夏の御文拝読法要 法話 木越康 師 (大谷大学教授)	赤野井別院
7日(水)	6:00～7:00	五村	夏中 暁天講座 法話 曾我朋子 師 (長浜 第12組 等倫寺)	五村別院
7日(水)	9:00～12:00	五村	夏中 夏の御文拝読・法話 法話 伊藤慈成 師 (長浜 第13組 真入寺)	五村別院
7日(水)	7:00～8:00	赤野井	暁天講座 法話 佐賀枝夏文 師 (大谷大学名誉教授)	赤野井別院
7日(水)	9:30～11:30	赤野井	永代経法要 法話 佐賀枝夏文 師 (大谷大学名誉教授)	赤野井別院
8日(木)	6:00～7:00	五村	夏中 暁天講座 法話 伊吹勇真 師 (長浜 第21組 願正寺)	五村別院
8日(木)	9:00～12:00	五村	夏中 夏の御文拝読・法話 法話 笠原俊典 師 (長浜 第15組 持専寺)	五村別院
13日(火)	10:00～11:30	岡崎	孟蘭盆会 法話 宮部渡 師 (大阪教区 西稱寺)	岡崎別院
15日(木)	12:00～13:00	赤野井	孟蘭盆会法要 法話 中川眞 師 (別院輪番)	赤野井別院
15日(木)	8:00～9:00	山科	孟蘭盆会	山科別院
16日(金)	10:00～10:45	大津	孟蘭盆会	大津別院
23日(金)	10:00～11:30	岡崎	三日講「蓮如上人を訪ねて」 法話 松岡響 師 (別院列座)	岡崎別院
27日(火)	12:00～13:00	赤野井	定例法要(宗祖親鸞聖人御命日速夜) 法話 中川眞 師 (別院輪番)	赤野井別院
27日(火)	14:00～16:00	伏見	ご命日のつどい 法話 治田保男 師 (近江 第2組 浄安寺)	伏見別院
29日(木)	14:00～16:00	大津	同朋の会 聞法会 法話 西寺浄帆 師 (三重教区 本覺寺)	大津別院

教務所夏期休暇のお知らせ

8月13日(火)～16日(金) ※詳しくは7ページ「教務所からのお知らせ」をご覧ください。

教務所閉所のお知らせ

8月23日(金) ※所員ミーティングのため教務所・教務支所を閉所いたします。

京都教区 Webサイト リニューアルの お知らせ

<https://www.k-kyoku.net>

公式 SNS で更新情報をお知らせします。
ご登録よろしくお祈りします!



七月から新京都教区が発足しました。出版部会も、旧長浜教区から三名、旧京都教区から四名、計七名の新部会員を迎え入れ、新たな体制で出発します。

先日の初会議では、新規の方々から多くのご意見が出ました。それぞれの方が志を持って集まっておられることを知り、力強さを感じます。

一方で、私自身は任期途中の補充だった経緯もあり、「とりあえず前任の方の穴を少しでも埋める」ことしか考えずスタッフとなりました。そのまま考えを深めることなく、気づけば一年近く経っています。

今回の新教区発足を機に、改善すべき点があれば皆で具体案を出し合い、よりよい運営ができればと思います。また個人的にも、これまでの出版部会の成果を確かめ、願いに立ち戻って、今後の方向性を考えたいです。

(出版部会 岩永 晶子)

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

教区だより 第411号

〔発行人〕宮戸弘 (真宗大谷派京都教務所長)

〔発行所〕真宗大谷派京都教務所

〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入

Tel 075-351-5260 Fax 075-351-5256

【表紙の写真】「まなざし」(石川慎悟 山城第1組 憶念寺門徒)

発行日 2024 (令和6) 年 8月1日

メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp

真宗大谷派 京都教区 Webサイト <https://www.k-kyoku.net>

